

学 生 相 談 室 だ よ り



2024 年 12 月：松蔭大学 学生相談室

また一年が終わろうとしています。今年の新年、学生の皆さんはどのような願いや目標をたてたでしょうか？そして、どの程度達成できたでしょうか？

新年を迎え、「こうなりたい」と目標をたてていたのに、私たち教員の年齢くらいになっていくと、いつの間にか「今年も一年、問題なく過ぎますように。幸せな一年になりますように」といった消極的な願いへと変わってしまいます。

しかし、学生の皆さん方は、まだまだ自分の人生を自分で創っていくことができる、羨ましい時期です。大学の講義やバイト、友人関係などいろいろな体験をたくさんしましょう。時に失敗をするかもしれませんが、「なぜ失敗したのか」と考察し、それを次に活かし、同じ失敗をしないよう努力する。その小さな積み重ねが、着実に成長につながっていくものです。大学四年間はあっという間に過ぎてしまいますが、たくさんの思い出を作っていきます。皆さんの成長を心から応援しています。

学生相談室長 深谷野亜

つながり合ってこそ ～地震と水害にあって～ 子ども学科 准教授 野川智子

1月1日夕刻、私は大型スーパーで買い物中。数秒前の揺れで「また地震ですね。」と近くの人と話してカートを動かしたそのとき、衝撃的な揺れに襲われました。もう立っていることができません。その場にしゃがんでもまだ体がもっていけません。しりもちをついてショーケースにしがみつきました。天井からは発砲スチロール製の飾りが落ちてきます。「早く外へ出ろ」というだれかの声で我に返ってようやく外の駐車場へ出ました。建物から少し離れてようやく立ち止まると、地面がゆっくりと波打っているような気がしました。それは不気味で足元が割れたらと思うと激しい揺れよりも怖く感じました。行き交う人と「津波ですね」「大丈夫ですか」と一声かけながら高台に向かう間にも余震で何度かしゃがみ込みました。

中学校がある公園につくと大勢が座り込んでいました。大人の中にも余震のたびに「怖いよ、怖い」と家族にしがみつく人がいます。体育館の窓は割れてカーテンが波打っています。とても避難所にはならないと思いました。元旦のことでしたので役所も学校も消防署も初動に遅れが出たことはやむを得ないし、すでに道路の損壊がひどくてどうにもならなかったのです。次第に冷え込み私は外で夜は過ごせないと思い実家に向かいました。幸い家は建っていて電気がつきました。玄関を開けたままでその夜を過ごしました。浅い眠りの合間にも余震で二度外へ飛び出しました。翌日から断水の日々。トイレが最難関でした。

それから9か月。まだ地震の復旧が遅々として進まない中、能登豪雨に襲われました。ニュースで近

所の家が映し出されたとき、それは想像を超えていました。1週間後ようやく帰省し玄関に一步踏み入れた途端、途方にくれました。家じゅうが泥に覆われています。床上浸水1m50cm。それからは泥出しです。腰をかがめての重労働できりがありません。同時に被害を受けた家財道具を外へ出します。すべてが水を含んで濡れた畳は大人4人がかりでやっとです。ボランティアの力なくては到底できない片づけの初日でした。

地震の時も水害の時も全国から多くのボランティアが来てくれました。自衛隊、消防、警察、行政の職員、電力会社、道路事業者等々、全国各地の車のナンバーを見ると感謝と同時に一人ではないという安心感に満たされました。日本航空高等学校石川(彼らは地震の被災で山梨に避難中)の学生も泥出しに来てもらいました。大学生の有志6人は「親に止められたけど来ました」と言い「足湯はいかがですか」と誘ってくれました。段ボール箱にビニル袋を敷いてカセットコンロで沸かしたお湯です。近所の空き地で疲れた足を温め、手のひらマッサージを受け、たわいもないおしゃべりで私は一息つきました。心が弱っているときは関わり合うことが救いになるのだなと感じました。組織的な大型のボランティアも必要ですが、個人的な小さなボランティアも大きな役割を果たしています。私自身も何かができるように思いました。学生の皆さんもきっと何かできることがあります。いつかどこかでボランティアしてみませんか。被災者には素敵な贈り物になるに違いありません。

【略歴】横浜市立小学校7校にて教諭、主幹教諭、副校長を歴任。その後、新採用教員指導教諭として7名を育成。NPO 法人子ども研究所理事

リスクとの付き合い 客員教授 宮林正恭 (リスク危機マネジメント専攻)

我々は困ったこと、つらいこと、悲しいことなど好ましくないことに遭遇する可能性をリスクという言葉で表します。

リスクには地震等の天災、近親者の死など、純然たる受け身のもの(受動的リスク)と自分が何かをやった結果として返ってくる失敗、怪我などの能動に起因するもの(能動的リスク)とがあります。受動的リスクが話題になることが多いのですが、個々の人にとっては能動的リスクの方がより重要であることが少なくありません。あらゆる行動は必ず何らかのリスクを伴っていると考えられるからです。

人は多くの場合本能的、あるいは後天的な学びからリスクを低くする術を知っており、リスクが発現して困った状態(危機)になること防いでいます。しかし、それを意識することが煩わしいことから、リスクを意識しない、あるいは、リスクの程度や中身を検討しないで安易に「リスクは低い」ものとしてしまうことも起こります。例えば、最近の報道に出てくる「闇バイト強盗事件」がそれです。標準を超えた高額のアルバイトが正当な仕事で得られると考えるのは常識的ではないのに、このようなことに巻き込まれる青少年が出てくるのはこのような心理によるものです。相手が信頼できるかどうかわからないのに自宅住所、電話番号等の個人情報教えるのも、

また、強盗をすれば捕まる可能性も高く、犯罪者となったら人生が悲惨になることを理解しているのにそのリスクを軽く見てしまうのも同様です。

逆に、リスクの中身や程度を十分把握しないで、ひたすらリスクを避けようとすることもあります。これまで経験がない場合や把握するのに時間や手数がかかる場合などです。リスクの中身や程度を知れば、案ずるより産むが易しと言う場合も少なくありません。基本的には、現在の自分の置かれた環境条件、自分の能力、現状における運やツキなど将来の見通しを含めて検討し、その能動的行動から得られる成果も勘案して積極的にチャレンジすることの方がメリットが大きいと考えられます。ある程度リスクがあることを覚悟しながらチャレンジしなければ人生の成功者とはなりえないのが通常です。

人生100年時代とすれば、学生諸君は今後約80年間リスクと付き合っていかなければなりません。リスクに対して人が落ち入りがちな上述のような問題点も理解して、上手にリスクと付き合い、豊かな人生を送ってほしいと願っています。

【略歴：通商産業省(現経済産業省)、科学技術庁(現文部科学省)、在米大使館、宇宙開発事業団、理化学研究所理事、千葉科学大学副学長を歴任】

☆☆☆ 気軽に相談してください。メール相談も受け付けています ☆☆☆

学生時代は悩みが多く、将来のことにも不安をいただくことが多いと思います。たとえば「友人、異性あるいはサークルのことで悩んでいる」「緊張しやすく、思うようなことができず困る」「不安やイライラで気分がすぐれない」「自分の性格とか外見とかが気になる」「学業や進路のことで戸惑い、困っている」「先生とうまく関われない」など、どんなことでも構いません。気軽に相談してください。

相談をすることで、ありのままの自分を理解し、その自分を生かしながら生きていけるよう願っています。

相談時間ならびに担当者については、大学の掲示板・HPで確認してください。また、事務室1階学生センター(河西)または深谷(室長 fukaya@shoin-u.ac.jp)まで連絡してください。



メール相談は、soudan@shoin-u.ac.jp または

メール相談

まで。